

これからの県立図書館に 求められるもの

2025/11/09

静岡文化芸術大学
教授 林 左和子

図書館の役割

図書館法

「図書館」とは、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設

IFLAユネスコ公共図書館宣言2022

社会と個人の自由、繁栄および発展は、人間にとつての基本的な価値である。このことは、十分に情報を得ている市民が、その民主的権利を行使し、社会において積極的な役割を果たす能力によって、はじめて達成される。建設的に参加して民主主義を発展させることは、十分な教育が受けられ、知識、思想、文化および情報に自由かつ無制限に接し得ることにかかっている。

IFLAユネスコ公共図書館宣言2022

地域において知識を得る窓口である公共図書館は、個人および社会集団の生涯学習、独自の意思決定および文化的な発展のための基本的条件を提供する。それは、商業的、技術的、あるいは法的な障壁に妨げられることなく、科学や地域に関する知識をはじめとする、あらゆる種類の知識へのアクセスを提供し、知識の生産を可能にし、かつ共有することによって、健全な知識社会を支える。

県立図書館の役割

図書館の設置及び運営上の望ましい基準

- 1 都道府県立図書館は、次に掲げる事項について、当該都道府県内の図書館の求めに応じて、それらの図書館への支援に努めるものとする。
2 都道府県立図書館は、当該都道府県内の図書館の状況に応じ、それらの図書館との間における情報通信技術を活用した情報の円滑な流通や、それらの図書館への資料の貸出のための円滑な搬送の確保に努めるものとする。
3 都道府県立図書館は、当該都道府県内の図書館の相互協力の促進等に資するため、当該都道府県内の図書館で構成する団体等を活用して、図書館間の連絡調整の推進に努めるものとする。

県内の情報格差の解消

- ・図書館未設置自治体の住民へのサービス
- ・図書館間相互貸借システムを構築することで、自治体の図書館が所蔵しない資料の提供を可能にする

おうだんくん、協力車

- ・国立国会図書館はじめとする国内外の図書館および関連機関の情報を提供、希望に応じて利用のサポートを行う

県内の公共図書館、学校図書館などの支援

- ・運営の相談、職員の研修、調査研究などを通してサポート
- ・資料情報の提供

子ども図書研究室の活動

- ・学校図書館など図書館職員が少ない場合は特に必要

現在の公共図書館がおかれている状況

自治体の財政難による図書館サービスの縮小

東京都清瀬市 6館ある図書館のうち4館を閉館とする 清瀬市立図書館

北見市立図書館 令和8年4月からの図書館施設廃止と館内閲覧停止(令和8年1月～3月)のおしらせ | 中央図書館 | 北見市立図書館

西予市 図書館の開館日の見直し 合併後の優遇終了、財政危機に 愛媛・西予市が「痛みの伴う改革」へ

指定管理者制度も

劇場・ホール、指定管理者の撤退・応募ゼロに動揺 - 日本経済新聞

自治体の指定管理施設、応募ゼロ相次ぐ 物価高が打撃 - 日本経済新聞

これからの県立図書館を考える

自治体の財政状況は厳しい

県立図書館は県民の税金によってまかなわれる

→ 県民全体の理解が必要となる

「場所としての図書館」では離れた地域の県民の理解は難しい
貸出実績に基づくサービス効果では県民全体を納得してもらうことは難しい

県立図書館は個人貸出が主な目的とはいえない

図書館があったから本を買わなくてよかった

↔図書館が貸し出すから本が売れない

個人の支出減であり、県全体としての経済効果は示せない

デジタル化の時代に向けて

デジタル化の時代だからこそ図書館に求められること

- ・地域資料の保存と提供 紙の資料も保存にコストがかかる
- ・CA2091 - 動向レビュー：磁気テープに記録された映像や音声の長期保存の問題 / 富田美香 | カレントアウエアネス・ポータル
- ・マイクロフィルムの生産終了→マイクロリーダーの製造は?
- ・デジタル資料の組織化や管理・保存

デジタルアーカイブ化とその維持は、市町存立図書館にとって負担が大きい → 県立図書館が県内の地域資料のデジタルアーカイブ化を推進する

デジタル化の時代に向けて

デジタル化の時代だからこそ図書館に求められること

- ・電子図書館サービス

県内公立図書館、学校図書館全体での電子図書館サービスの導入 [デジとしょ信州（市町村と県による協働電子図書館）](#) | 県立長野図書館

読書バリアフリーの推進に役立つ

市町村単位での対応は負担が大きく、格差が生まれる

- ・デジタル技術を活用した県内全域へのサービス

オンラインイベントや講座の開催

オンラインを活用したレンタルなど

デジタル情報も無料ではない

広報活動

① 目的

- ・図書館の活用方法をアピールし利用につなげる
- ・図書館の存在意義や経済効果をアピールする

② 方法

- ・SNSの活用 口コミからはじまる
- ・マスコミの協力
 - マスコミが興味をもつ企画
 - 参加者が納得してくれることで次につながる
 - 基本は図書館サービスの充実

何を広報するか

- ・現在の県立図書館の活動(存在意義や県全域への貢献度)をアピール
- ・新県立中央図書館が必要な理由
 - 現在の施設・設備の限界
 - 新県立図書館が果たすことができる役割とセットで広報
- 図書館への関心を高める(ファンをふやす)

現在の県立図書館の活動

現在、県立図書館の存在意義に关心をもっていない人、利用したことがない人に届けることを考えると

県立図書館の支援が市町の図書館活動に役立っていることを見える化する 図書館の裏側を積極的にPRする

・市町の図書館の資料費を抑えることができている

相互貸借と図書館協力車の活動

レファレンス など

・市町の図書館の資料保存の経費を抑えることができる

県立図書館が保存機能を担うことで

経済効果を生み出すサービス

ビジネス支援サービス松本功『税金を使う図書館から税金を作る図書館へ』
考えられることとして

- ・社会人の学びなおし E1596 - MOOCを活用した図書館での大学レベルの学習機会の提供 | カレントアウェアネス・ポータル 大学などと連携で可能
- ・デジタルアーカイブを活用した授業例を考える(県総合教育センターとの連携) → デジタルアーカイブを活用したビジネスコンテスト オープンデータ等活用アイデア学生コンテスト | 静岡県公式ホームページ

県立図書館サービスが県内の経済活性につながることをPR

現在の施設・設備の限界

書庫スペースの不足

- ・事務棟と書庫は同一敷地内にないと、作業を効率的に行うことができない **職員の労働時間はコスト**

デジタル化への対応が不十分

- ・デジタルアーカイブ化のための設備
- ・オンラインイベントや講義を行うための施設・設備

閲覧スペースの改善

新しい県立中央図書館を考えるにあたって

- ・県立図書館と市町の図書館のネットワークを強化して、県全体へのサービスの充実をめざす

県立図書館と市町の図書館の役割分担を考える

- ・限られた予算で県民全体への情報提供を可能とするシステムを全国に提案するつもりで取り組む

立派な建物、交流の場などは求めない

これを求めると民間の活力(PFIなど)といった話になる

県立図書館に求められる機能を精査して、そのために必要な施設・設備を絞り込む

人によって支えられる

資格をもった専任の図書館員が必要な事情

図書館員も学び続けなければならない

資格を取得している＝学ぶための基礎知識をもっている

＝図書館への興味・関心が高い → 意欲がある

専任職員＝図書館の仕事を続けられる

学ぶためにかけるコストが効果をあげる

新しい県立図書館の建物にこだわって、予算を人につけることができなくなる事態は避けなければならない